

穴栗版キエーロ 使い方マニュアル



穴栗市生活衛生課

1 穴栗版キエーロの特長

- 家のスペースに合わせ、庭でも、ベランダでも設置することができる。
- 黒土の中のバクテリアが生ごみを分解するため、土が増えず、手入れが不要。
- 何度でも使え、維持費がかからない。
- 使い方が簡単。虫やにおいが気にならない。
- 食用の廃油、汁物、腐ったもの、カビの生えたものでも投入が可能。
- すべての食品の水切り不要。環境にやさしい。
- 木材は穴栗材を使用。

2 準備するもの

- 【土】 黒土 約 100 ㍓
畑の土やホームセンター等で購入した土が使用できます。
砂や粘土質以外のものなら大丈夫です。
- 【スコップ】 剣先スコップ中型 園芸用スコップがあれば便利
- 【じょうろ】 キエーロに水を補給するために必要。
バケツやペットボトルなどでも代用可能
- 【フタつきの容器】 生ごみを溜めてキエーロに入れる場合に使用

※土の上に設置する場合は、キエーロの足の下にレンガなどの敷石があるとよい。

3 設置場所について

- ・日当たりと風通しの良い場所
- ・土を入れると重くて動かすことが難しいので、使いやすい場所に設置しましょう。

4 使用手順

①生ごみを溜める

フタつきの容器に生ごみを溜めておくと便利。

容器はどんなものでもOK。

毎日埋めてもよし、数日間（3～4日）溜めてもよし。

ただし、夏は腐りやすいので長い日数溜めないよう注意。

②キエー口内の土に穴を掘る

20 cmほどの深さの穴を掘る。

掘ったところの乾いた土はよけておく。（※後ほど使用）



③生ごみを入れてかき混ぜる

1回に入れる生ごみの量は、およそ500gが目安。

生ごみが乾いていたら、水や食用の廃油を一緒に入れる。

土に入れる水や廃食用油の量は、ぎゅっとにぎって土だんごが作れるくらいの量にしてください。（多すぎても少なすぎてもダメ）

スコップで細かく砕きながら、土と見分けがつかなくなるくらいまで混ぜ合わせる。土とよく混ぜ合わせることで生ごみを分解しやすくなり、虫も発生しにくくなります。

この工程が一番大事！



④乾いた土をかぶせて終了

②でよけておいた土をかぶせて埋め戻します。このとき生ごみが見えないようしっかりとかぶせることで「におい」や「虫の発生」を抑えることができます。

表面の土は常に乾いた状態を保ってください。

生ごみを埋めた場所に目印をつけておくとよい。



⑤①～④の作業を繰り返す

埋める頻度は毎日でも数日おきでもよい。

穴栗版キエーロのサイズ（幅 85 cm×奥行 45 cm×高さ 60 cm）で 6ヶ所が目安。

順番に埋める場所を変えることで、一巡したころには最初の生ごみが分解されて消えています。

分解にかかる日数は、夏場で 3～4 日、冬場で 2 週間程度。

5 キーロに入れていいもの、ダメなもの

入れていいもの

ほとんどの食材はOK。

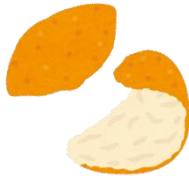
傷んだ野菜や果物、火や湯を通した野菜や果物、魚の内臓や煮汁、ラーメン・みそ汁など調理品の残り物、残飯、食用油（廃食用油）、米ぬか



時間がかかるもの

【そのままでは分解しにくいので、加熱や細かくするなどの工夫が必要】

生野菜（葉や芯）、かんきつ類の皮、魚の小骨、根菜類、ブロッコリーの太い茎、玉ねぎの外側の皮、たまごの殻



ダメなもの

貝殻、動物の骨、魚の大きな骨、カボチャや梅干しなどの種、トウモロコシの芯や毛、豆類のさやの筋など



基本的に人間が食べられるもの、加熱したもの、細かくしたものなど食べやすいものが分解しやすいです。

時間がかかるものはできるだけ細かく刻み、しっかり穴を掘り、生ごみを土とよく混ぜ、土をかぶせてフタをするのが分解のコツです。

家庭から出るごみの一部を処理するものとしてご活用ください。

6 Q&A

- Q. 生ごみが消えないんだけど…
- A. 生ごみの量は適量ですか？
⇒1 回に500 g ぐらいが適量です。
使い方は正しいですか？
⇒埋めた後、**生ごみと土をよく混ぜてください**。使い始めや気温の低い季節はバクテリアの活性が低く分解に時間がかかります。
- Q. 特に野菜の生ごみが消えない
- A. できるだけ細かく刻んだり、容器で数日置いてから入れると分解しやすくなります。また、米ぬかや廃食用油と一緒に混ぜると分解が早くなります。
- Q. においがする。虫が発生している。
- A. 生ごみが土の表面に近かったり、かたまりのままになっていると、におい等の原因になります。しっかりと土とかき混ぜ乾いた土をかぶせてください。(20 cm ぐらいの深さが最適)
- Q. 土は増えたりしないのですか？
- A. 土の中のバクテリアが生ごみを水と二酸化炭素などに分解し空気中に放出されるため、**土は増えません**。
分解が終わると、土の中に灰色や白いカビのようなものがついた土のかたまりが残ることがあります。細かく砕いて土に混ぜてください。
- Q. 黒土の代わりに腐葉土や培養土は使えないの？
- A. 腐葉土や培養土はバクテリアの密度が低く、分解能力が落ちるので生ごみ処理には向いていません。市販の場合、堆肥成分等を含まない安価なもので大丈夫です。

冬場を乗り越えるポイント

気温の低い冬はバクテリアの活動も鈍く、分解が遅くなります。冬を乗り越えて快適なキエーロライフを送るためのポイントを紹介します。

ポイント1 いつもより土をよく混ぜる

冬は土も冷えて固くなりがち。分解中の塊をほぐすだけでなく、シャベルを刺すようにして全体的に空気を入れ、ふかふかの土を保つことが大切です。生ごみの分解が全て終わった頃を見計らい、一度底の方から掘り返してみましょう。空気の入った土はやわらかく、作業も楽になります。

ポイント2 生ごみをいつもより長く溜める

野菜くすなどバクテリアの苦手なものはフタつきの容器にいつもより長めに溜めておくと分解しやすい状態になります。屋内に置いていてもおいが気になりにくい冬ならではのコツ。分解しやすい肉や魚は早めに埋めて、野菜類は長めに溜めてから埋めると良いでしょう。

ポイント3 使い終わった油が分解を早める

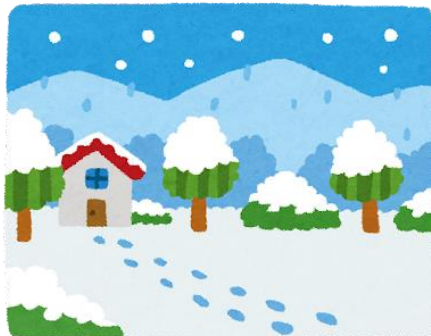
使い終わった食用油はバクテリアの働きを活発にして分解を早めます。廃食用油を取っておいて、野菜くすをたくさん埋める時に一緒に混ぜると効果的です。

ポイント4 生の野菜くすは小さくするか、熱を通す

特に分解に時間がかかるのが野菜くすです。小さく刻むか、調理時に出た下ゆでの残り湯にしばらくつけておきましょう。また、野菜の皮や芯、ヘタなどは出汁にすることで美味しく栄養も取れて一石二鳥です。

ポイント5 分解しにくいものは燃やすごみに出す

「工夫しているのに消えるのが遅い」など分解が遅いものは燃やすごみの収集に出し、肉や魚など分解しやすいものを中心に埋めるなど、キエーロに無理をさせないことも上手に使うコツです。



穴粟版キエーロ トラブル解決シート

原因		対策	緊急的対応	
虫が発生した	生ごみが表面に出ていませんか？ 生ごみが浅いところに埋まっていますか？	虫が寄ってくるにおいの原因になります。深さ20cmの所に埋めなおしましょう。	殺虫剤を使用しても分解には影響ありません。熱湯を少量かけて退治することもできますが、水分量には十分気を付けてください	
	土の表面が湿っていませんか？	中の生ごみのにおいが外に漏れやすくなります。乾いた土をかぶせるか、表面が乾くまで生ごみの投入を控え、空気を混ぜながら生ごみを分解しきってしまいましょう。		
	生ごみと土が混ざらずに塊になっていませんか？	土と混ぜ合わせなければ生ごみの分解が進まず、においの原因となって成虫が卵を産みにやってきます。埋める際にはよく土と生ごみを混ぜましょう。		
においがする	掘り起こすと臭う	中で土が固まっていますか？	乾いた土を表面にかぶせるとにおいが緩和されます。	
	掘り起こすと臭う	中で水分がドロドロになっていませんか？		
	掘り起こすと臭う	生ごみが多すぎてませんか？		
	掘り起こすと臭う	魚の内臓などにおいの強い生ごみを入れましたか？		
	表面が臭う	表面が臭う		土の表面が湿っていませんか？
		表面が臭う		生ごみが浅いところに埋まっていますか？
生ごみが消えない	生ごみと土をよく混ぜていますか？	穴に生ごみを入れ、土をかぶせるだけでは分解は進まず、虫やおいの原因となります。生ごみと土をよく混ぜ合わせることで分解しやすくなるので、生ごみを入れたら土と一緒に刺すように混ぜ合わせてから土をかぶせてください。		
	使い始めて間もないですか？	初めのうちはバクテリアが少ないので分解に時間がかかりますが、生ごみの投入を続けるうちに分解が進むようになります。		
	野菜が残っていることが多いですか？	野菜（主に皮や芯）は分解に時間がかかりますが、いずれ分解されます。次の生ごみを一緒に埋めても大丈夫です。乾燥した野菜くずが多いときは適量の水分や廃食用油を加えると分解しやすくなります。（水は入れすぎないようにしてください）		
	中がドロドロで生ごみが全体的に残っていますか？	水分が多すぎです。乾いた土と混ぜ合わせて水気を緩和し、生ごみが分解されるまで投入を控えましょう。		
	底の方で土と一緒に固くなっていますか？	空気が不足しています。空気を入れるように混ぜて分解を進めてあげましょう。		
	白っぽい土のかたまりになっていますか？	白っぽいカビのようなものは分解が進んでいることを表しています。シャベルでかたまりを砕いておけば完全に分解されるので、次の生ごみも一緒に埋めても問題ありません。		
	気温が下がってきていませんか？	寒くなって気温が下がると分解が遅くなります。前ページを参照してください。		